

目黒線の混雑緩和と快適性向上を実現 当社保有車両の8両編成化による輸送力増強と新型車両3020系の導入

東京急行電鉄株式会社

当社は、2022年度上期から、当社が保有する目黒線の車両を6両編成から8両編成に順次変更し、輸送力を増強することで混雑緩和を実現します。併せて、2019年秋から新型車両3020系の導入を開始し、快適性向上を推進するほか、追加される2両分のホームドア設置を進め、安全対策にも取り組みます。

1. 目黒線8両編成化による輸送力増強

目黒線は2008年6月に日吉駅まで延伸し、利便性が向上したことで、多くのお客さまにご利用いただいています。今般、混雑緩和と利便性向上を目的に、2022年度上期から、当社が保有する車両を6両編成から8両編成に順次変更し、輸送力の増強を行います。当社保有の全26編成(新型車両の3編成を含む)の8両編成化は、2022年度下期(予定)の東急新横浜線開業までの完了を予定しています。

なお、目黒線の8両編成化に伴い追加される2両分のホームドアについても、8両編成車両の運行開始までに全13駅で整備を行い、ホーム上の安全対策を実施します。

2. 新型車両3020系の導入と快適性の向上

目黒線の車両として、2019年秋に新型車両3020系の導入(6両3編成)を予定しています。2018年に導入された田園都市線の新型車両「2020系」や大井町線「6020系」と同様、車内には空気清浄機を設置し、座席は背もたれの高いハイバック仕様を採用することで、車内の快適性向上を図ります。また、ドア上に配置するデジタルサイネージでは、多言語案内の充実を図るとともに、ニュースや天気予報など充実した情報サービスを提供します。

なお、導入する目黒線の新型車両についても、2022年度上期から、6両編成から8両編成に順次変更し、2022年度下期(予定)の東急新横浜線開業までの完了を予定しています。



▲新型車両3020系イメージ



▲3020系 インテリアイメージ

以上

目黒線施策の詳細

1. 目黒線8両編成化による輸送力増強

(1) 変更時期

- ・運行開始予定時期: 2022年度上期以降順次
- ・全26編成(※新型車両の3編成含む)の変更完了予定時期:
2022年度下期(予定)の東急新横浜線開業まで

※編成数の考え方

(現在) 6両23編成

(変更完了時) 8両26編成(新型車両の3編成を含む)

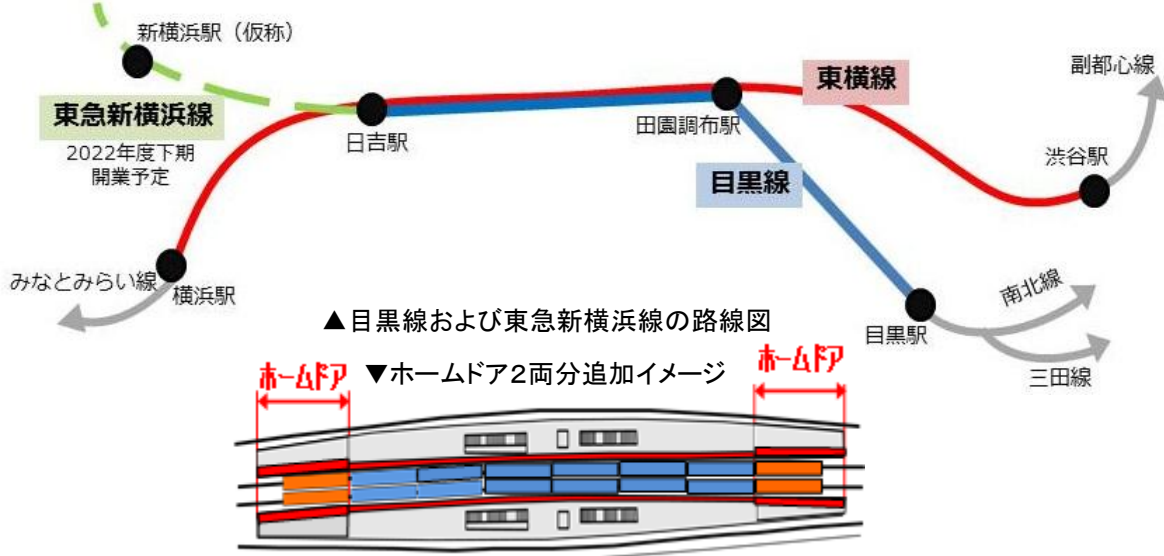
(2) 輸送力増強

当社が保有する車両(26編成)を6両編成から8両編成に順次変更し、輸送力の増強を行うことで、混雑緩和を実現します。なお、現在のダイヤで想定した場合、当社保有の全車両を8両編成に変更した後の輸送力は、朝ラッシュピーク時(7:50~8:50)1時間あたり、不動前駅~目黒駅間(上り方向)で約21,300人から約24,000人※と約13%増加する見込みです。

(※)現在のダイヤ(2019年3月16日改正)では、ピーク時に不動前駅~目黒駅間(上り方向)で列車本数は24本ですが、そのうち9本が当社保有の車両です。該当する9本の車両全てが8両編成化された場合に約24,000人の輸送力となります。

(3) ホームドア整備

目黒線の8両編成化に伴い追加される2両分のホームドアについて、8両編成車両の運行開始までに全13駅で整備を行い、ホーム上の安全対策を実施します。



2. 新型車両3020系の導入と快適性の向上

(1) 導入予定時期: 2019年秋

(2) 導入編成数: 6両3編成

(3) 主な機能

- ・騒音、使用電力の低減
- ・空気清浄機を設置
- ・背もたれの高いハイバック仕様の座席を採用
- ・防犯カメラの設置による車内のセキュリティの向上
- ・全車両にフリースペースを設置し、バリアフリー対応を強化するとともに、編成全体の定員を増加
- ・ドア上に配置するデジタルサイネージによる多言語案内や、情報サービスの充実



▲新型車両3020系イメージ

(4) 8両編成化変更時期

運行開始予定時期: 2022年度上期以降順次

変更完了予定時期: 2022年度下期(予定)の東急新横浜線開業まで